

一緒に高校に行こう

写真は神奈川新聞 4月10日「やまゆり学園事件考 共生を求めて③」である。当日、記事を送ってもらい感動して読んだ。人工呼吸器をつけて、元気に地域の中学校に通う林京香さん。名古屋市立大を定年退職する半年ほど前に、卒業生から京香さんを紹介してもらい、それから交流を続けている。写真の友利ひよりさん(14)は京香さんと小学生からの親友だ。ふたりの付き合いを記事から紹介したい。

小学校は各学年1クラスしかない小規模校で、一緒に登校もした。中学ではまだ同じクラスになっていない。「3年生でこそ一緒に」。2人の思いは同じだ。

言葉での意思表示が難しい京香さんが何を考えているのか。ひよりさんは、親友の本心を探るのが楽しいという。「京ちゃんの考えていることは大体分かるよ。ずっと一緒だし、お互い好き同士だからね」

先生に対する愚痴、嫌なテスト…。京香さんに語り掛ける内容は、思春期を迎えた誰もが口にするたわいのないことばかり。2人とも来年は高校受験に臨む。

「京ちゃん、高校どこ行くの？ 同じ高校に一緒に行こうよ。私も京ちゃんと一緒だと安心だから」

京香さんは、何度もまばたきした。うれしい。私も一緒に高校に行きたい。でも、合格するかどうか不安。そんな心境だった。「勉強するしかないよね、受かるには。一緒に頑張ろう」

話題は高校卒業後に及んだ。ひよりさんは介護職に関心がある。親が高齢になったら介護で恩返しをしたいとの思いがあるが、それだけではない。呼吸器の子や障害者が集まるキャンプに京香さんと一緒に参加し、サポートを必要とする人が多くいることを実感した。京香さんが小学校に入るまでの日々を追ったドキュメンタリー番組を見て、兵庫県で小学校から高校まで普通校に通った呼吸器利用者、平本歩さん(34)のことも知った。先駆者の一人はいま、地域で介助を受けながら一人暮らしをしているという。

「大学に行ったら、京ちゃんと部屋をシェアして一緒に住もうか。そのときは私がヘルパーの一人として介護しようかな」

共に学び、育つその先に膨らむ夢。紡がれた2人の絆は、それぞれがこれからどんな未来を歩もうとも揺らぐことはない。

—京香さんの母親、林有香さんは『はるよこい』208・209合併号で、「ともに育ちあっていく中の未来はきっと明るいただろうと思いました」と語る。

(2020年6月9日)

